つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

神社を出発する神輿／平成28年神幸祭

氏神と産土神

「氏神様」と「産土神様（うぶすながみ）」どちらとも良く似た言葉ですが、その意味は少し違いがあります。

氏神は本来、古代社会において氏族が祀った祖先神または守護神のことで、一言でいうと「その一族の神様」ということです。

産土神は、自分が生まれた土地（ふるさと）の神様のことをいいます。

ですから、氏神と産土神の違いとは、簡単にいうと「血縁的な神様か地縁的な神様か」ということです。

中世以降は、武士が荘園での在地性を強化していく過程でその土地の神様を氏神として祀るようになり、そのため氏神を祀る集団の性格が血縁から地縁へと変わっていくようになり、その結果、氏神と産土神は混同されるようになっていきました。

氏神と産土神を区別して考えるには、吉備津で生まれてその後、早島町早島に転居した方は、吉備津神社が産土神で鶴崎神社が氏神となるという考え方です。

当社の氏子地区内で生まれた方々は故郷を離れ遠く異郷の地で暮らしていても、帰郷すれば産土神としての鶴崎神社が何時でもお迎えします。

安原伝兵衛物語

9

「面白い話じゃったな。お前さんの努力はたいしたもんだ。いろいろな出会いが今日まであってこの寺へ辿り着き、最も大事な出会いが今先あったぞ。判っておるじゃろ、十一面観音菩薩じゃ。これまでもそしてこれからも仏さまの因果に繋がれている。それを活かすも殺すも、お前さんの努力とお祈りを続けることだ」

正覚のお教えは伝兵衛の胸を打った。世間の知恵や経験が浅いからすんなりと受け入れることができた。

鳳泉寺の夜、伝兵衛には刺激が強すぎて、なかなか寝つけない。臥床のなかで正覚の言葉や本堂の十一面観音菩薩の印象を反芻していると眠りに落ちた。

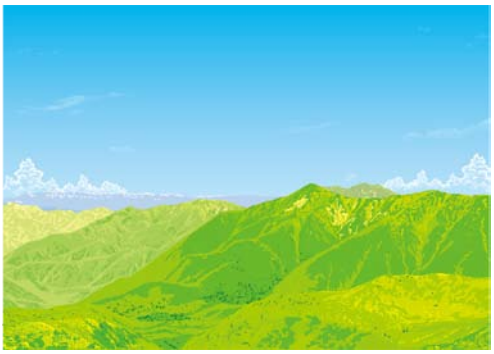
り水観音が夢枕に現れた。

「今日からは一人旅ではないよ。淋しい時、悩んだ時、窮地に立った時は念ずるがよい」

目覚めて、正覚に夢を話すべきか迷った。結局、気迷いか錯覚かも知れないと考え、打ち明けず旅立った。

石見や出雲へ行く最大の難所赤名峠を目指して歩いた。山道は次第に険しくなり、山霧が山裾から湧いてくる。山頂は雲に覆われ、やがて雨になった。雨宿りするのも容易ではない。やっと見つけた小さな地蔵堂で一夜を明かすこともあった。

難所を抜けると、はるか日本海の方向の山並みは低い。その中で、三瓶山は群を抜く高さの名峰で、広い山裾には幾つもの温泉が湧いている。鄙びた温泉宿に泊まり、泥色の温泉に入り、雄大な三瓶山を眺めていると長旅の疲れも消え、順調に進めば明日あたり待望の石見銀山へ辿り着ける所まで来た。



石見銀山という山がひとつあると伝兵衛は想像していた。来て見ると大違いだった。仙の山という七谷もある銀山と、山吹城が頂上にある要害山に挟まれて大きな町、があった。それら全てを囲んで長い柵が延々と続いている。人の出入口は口留番所と言われていた。その数は十カ所程あった。大きなのが南の坂根口留番所と北の蔵泉寺口留番所だ。

御師姿の伝兵衛が坂根口留番所の前にったのは昼下がり、人馬の一番混む時刻だった。通過待ちの長い行列ができている。取り調べに時間がかかっている。やっと伝兵衛の番が回ってきた。

「山師の錦織弥太夫さんを訪ねてきた安原伝兵衛と申します」

「生国と職業は？」

「備中早島の生まれで、馬子をやっておりましたが」

「何っ馬子だと？何で御師の恰好をしているんじゃ？」

「これは御崎宮のご厚意で頂いた衣裳で俄御師みてえなもんですけん」

「何で変相をせんならんのだ？錦織弥太夫の書きつけを見せろ」

「書状みてえなもんは持っとりやせんですが」

髭面の番士は顔を紅潮させて怒鳴った。

「こ奴を厳しく調べろ。何とも怪しい奴だ」

「錦織弥太夫さんに聞いてつかあさい。そうすりゃ判ることですけん」

必死に訴えたが、別室に連れ込まれた。間の悪いことに、錦織弥太夫は自宅のある出雲の田儀に帰って不在だった。道中には役立った御師の恰好がここでは仇になってしまった。二刻拘留された後、御札と節約して残していた有金を没収された上に縄を打たれ、蔵泉寺口留番所送りになってしまった。そこは一番大きな番所で牢舎もある。

坂根口留番所のある銀山町から大森町の蔵泉口留番所までの長い道すがら、縄付きの姿を好奇の目にさらされた。縄付きの罪人なんてこれまで見たこともなかったのに、今伝兵衛自身がなってしまった。牢舎にぶち込まれてすっかり憔悴した。誰彼となく「錦織弥太夫さんに会わせてつかあさい」と訴えた声も次第に小さくなり、やがては跡絶えてしまった。牢舎は薄暗くじめじめして黴臭い。

（こねえな狭くて陰気な処に閉じ込められるなんてこったあ耐えられん。儂はどげな罪をばしたんじゃ）

神道Q&A

【質問】

節分には豆を撒いて、家の中から鬼を追い出しますが、この鬼の由来について教えて下さい。

【答え】

一年を二十四に分ける節気のうち四季の節目を指す**立春・立夏・立秋・立冬**のうち、特に冬（陰）から春（陽）に移り変わる立春が、節気による正月節として重視されたため、一般的には立春の前日を節分と呼んでいます。

節気と旧の暦月では差異があり、旧暦でみると、十二月中旬から一月中旬までの時期に節分が廻ってきます。

また現行暦によると二月三日、四日がこれに当り、この日には一年間の無病息災を祈る節分行事がおこなわれます。

この行事は、古くは中国でおこなわれていたものであり、我が国に伝来した当初は、大儺（たいな）と呼ばれていました。

文武天皇の御代（七〇六）に、全国で疫病が蔓延したため、宮中において初めて大儺が執行され、その後、疫病の原因と考えられた鬼（陰）を追い払うために、暦月による十二月晦日におこなわれました。

当時の大儺は、儺人（なひと）と呼ばれる役目の者が、方相氏（ほうそうし）（古代中国の伝承に登場する鬼神）の仮面を付け、桃の弓・葦の矢・戈（ほこ）といった武具を持ち、「鬼やらう」と歓呼しながら目に見えぬ鬼を追うものでしたが、やがて大儺から追儺（ついな）へと名称が変わるにつれて、本来鬼を追う儺人が、鬼のような仮面を付けていたため、逆に目に見える鬼として追われるようになりました。

室町時代以降、神社や民間でもこれに倣い、現在のように節分の日に定めて豆を撒きながら鬼を払い、福を迎える祭事としておこなわれ、今日に伝えられています。

このように行事内容や時期などに変遷もありましたが、人々の篤い願いには変わりはありません。

まいられぇ岡山

県内の神社仏閣を巡る

人と自然の共生と信仰の歴史を今に伝える神社仏閣。豊かな自然と温暖な気候に恵まれた岡山県には、由緒ある神社仏閣が数多く創建され、古くから人々の心を癒やしてきました。

そんな岡山の由緒ある社寺を巡拝して、歴史を学び、岡山の信仰を再認識するべく、今年も五十九の社寺が参加して「まいられぇ岡山」が開始されました。ガイドブックには、各社寺の縁起や見どころなど、幅広く紹介されています。

参加している神社、仏閣では来年四月三十日まで、フォトコンテスト（H30・4・30〆切）とスタンプラリー（H30・5・31〆切）も同時に行われています。

応募用紙を兼ねたガイドブックは拝殿内に置いてありますので、お持ち帰りの上、ご参加下さい。

提灯の奉納

祭典時に境内に掲げる提灯が長年の使用により破損していましたが、この度「早島地域農園」から、鶴紋２灯と鳩紋２灯の合わせて４灯の奉納がありました。

奉納された鶴紋提灯

責任役員・総代の改選

総代長に安原昇氏　副総代長に古家野茂基氏が就任

当社の責任役員及び総代は四年の任期で、今年が改選の年にあたることから、六月二十五日に総代会を開催し、改選が行われ、次の方々が就任しました。

役　職	氏　名	担当地区	備　考	留／新
責任役員・総代	安原　昇	塩津	総代長	留任
〃	古家野　茂基	帯高三丁割	副総代長	〃
〃	小郷　正廣	金田		〃
〃	永原　耕吉	宮崎	会計	〃
〃	大森　茂	頓行・小浜		〃
〃	佐藤　史男	早高南		〃
〃	亀山　秀明	前潟		〃
〃	佐藤　豊行	早高北		〃
総　代	寺山　俊雄	市場	監事	〃
〃	八木　二郎	高須賀	監事	〃
〃	今田　陸利	弁才天		〃
〃	渡辺　利明	船本		〃
〃	松田　喬	長津		〃
〃	岡本　冨士夫	片田		〃
〃	大森　真澄	中帯江		〃
〃	小池　康太	塩地・花町		新任
〃	小川　英治	帯高南古開		〃
〃	曽我　均一郎	無津		〃
〃	板谷　章二	西田・亀山		〃
〃	上田　伸一	下前潟・久々原・三軒地		〃

参拝者名簿の設置

当社への参拝の証に、参拝者名簿を拝殿前の向拝に設置しております。

参拝の節にはご記入下さい。

総代就任奉告祭後の宮司と総代

祭事暦

十月十四日（土）
鶴﨑神社秋季大祭【供膳祭】［午前十時］
八幡神社秋季大祭［午後七時］
（露店あり）

十月十五日（日）［午前九時］　神幸祭

十一月中　七五三祈祷

十一月二十三日（木）［午後二時］
新穀感謝祭

一月二日（火）［午後二時］　年始祭

毎月一日［午前九時］　月次祭

※月次祭はどなたでも参列出来ますので、お誘い合わせご参拝下さい。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております。

◆初宮詣・七五三詣・交通安全・厄除・九星災難消除・安産・家内安全・当病平癒・学業成就・その他

◆地鎮祭・上棟祭・家遷清祓・埋井祭・改装清祓・解体清祓宅神祭・神葬祭・霊祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。